

# 知的障害者の職業訓練への取り組み

神奈川県障害者職業能力開発校 実務作業系 サービス実務コース 関根 秀之

## 1. はじめに

神奈川県障害者職業能力開発校は職業能力開発促進法第16条に基づき設置され、県が国から運営を委託されている施設で、昭和24年に設立され主に身体障害者を対象とした訓練を実施してきました。昭和58年から知的障害者に対する訓練の試行をはじめ、昭和63年から本格的に実施し、現在は知的障害者に対して、訓練期間1年のクラフト実務・生産実務・サービス実務の3コース定員30名、および第3セクターの神奈川県能力開発センターへ、訓練期間1年の機械工作・電気機器組立・部品組立の3コース定員30名を委託して訓練を行っています(表1)。

また、身体障害者を対象とした、装飾技術(2年)、機械製図、電子機器制御(2年)、グラフィックアーツ、OAシステム(2年)、OA経理、文書事務、電話オペレータの8コース延定員120名の訓練を行っています。

以上が当校の概要ですが、昨今の障害者とのノーマライゼーションが叫ばれるなか、知的障害者の就職の状況に対応すべく平成8年度より実務作業系3コース(クラフト実務・生産実務・サービス実務)の1つとしてサービス実務コースが発足しました。以下、サービス実務を中心に知的障害者への職業訓練の取り組みについて述べます。

対象障害は、知的障害で1年間の短期コース。定員数は10名程度です。その訓練目標は、「レストラン、食堂等の食品盛りつけ、配膳、食器洗い、フロ

アの清掃およびその他店内の草花の飾り付けなど、主に食堂等の配膳および環境整備に関わる補助的作業を通じて、社会性、協調性、作業習慣、職場規律を身につけることにより、作業能力を高め、職業人として自立できる」ことを掲げています。

具体的な訓練内容について記述しますと、就職したときの体力強化として基礎体力作り(ラジオ体操、腹筋、背筋、柔軟、手押し車等)、畑作業を行っています。畑作業は、陽光および風に触れるなかで「土」「水」および「緑」と接することにより、情緒安定、持続力向上および忍耐力向上などと同時に健康と体力向上が図れ、職業人として必要な基礎作りができ、きわめて有効な効果がありますので、3コース共通作業として実施しています。また、入校してから3ヵ月間は導入訓練として個々の能力をみる期間であり、国語(漢字の書き取り)、算数(簡単な四則計算)、ボルト・ナットによる部品選別や部品組立、紙箱作り、定規による線引き等が行われています。

その後コース別の訓練に分かれ、そこでの作業訓練では、①レストラン、食堂等における補助的作業(食器洗い、食材の準備等)、②清掃に関する基礎的作業、③接遇に関する基礎的訓練(発声練習、挨拶の仕方、レストランや食堂における接客業務等)を行っています。この誌面をお借りして今回は、サービス実務コースの特徴である①～③の内容について詳しく説明させていただこうと思います。

## 2. サービス実務コースの訓練

2.1 レストラン、食堂等における補助的作業  
主として行っている作業は、(1) 開発校訓練生

表1 知的障害者訓練コースの推移

年 度	コース名	定 員	入 校	修 了
昭和58	技能専修	5	4 (1)	4 (1)
昭和59	生徒実務A	10	8 (1)	8 (1)
	生徒実務B	4	4	4
昭和60	生徒実務A	10	3	3
	生徒実務B	4	4	4
昭和61	生徒実務A	10	9	9
	生徒実務B	4	5	5
昭和62	生徒実務A	10	10 (2)	10 (2)
	生徒実務B	4	4	4
昭和63	生徒実務	15	15 (3)	15 (3)
平成元	生徒実務	15	15 (1)	15 (1)
平成2	クラフト実務	10	9 (6)	9 (6)
	インテリア実務	10	8	8
平成3	クラフト実務	10	6 (6)	5 (5)
	インテリア実務	10	7	4
平成4	クラフト実務	10	10 (10)	9 (9)
	インテリア実務	10	10	6
平成5	クラフト実務	10	8 (8)	8 (8)
	インテリア実務	10	11	7
平成6	クラフト実務	10	10 (10)	7 (7)
	インテリア実務	10	10 (4)	5 (1)
平成7	クラフト実務	10	4 (3)	3 (2)
	インテリア実務	10	8	8
平成8	クラフト実務	10	7 (6)	6 (6)
	生徒実務	10	6	5
	サービス実務	10	6	6
平成9	クラフト実務	10	9 (6)	8 (5)
	生徒実務	10	10	7
	サービス実務	10	8 (2)	8 (2)
平成10	クラフト実務	10	6 (2)	
	生徒実務	10	9	
	サービス実務	10	9 (2)	

※ ( ) 内は、女性で内数

の昼食で出た食器の汚れ物を洗浄する作業、(2) 厨房で使った鍋や鉄板を磨く作業、(3) 包丁などを利用して食材の準備をする作業です。

### ・ 食器洗浄作業

10名(8年度は6名, 9年度は8名)を2班に分けます。一方は下洗いとして食器の水洗いとすすぎ、もう一方は本洗いとして洗剤で食器を洗うことを行います。下洗いの班が食器を水洗いし、本洗いの班に渡します。それを本洗い担当の生徒が洗剤で洗い、下洗いの生徒がすすぎという手順で行います。すすぎ終わった食器は、コンテナに入れてお湯の出るところまで運び、約5分間お湯に浸けて仕上げます。



基礎体力作り



畑での作業

仕上げが終わった食器を洗い籠に入れて、実習室にある食器保管庫に入れて約90℃で1時間消毒をして終了、翌朝食堂へ戻すという作業です。繰り返し行っていくなかで作業の流れを理解し、慣れて余裕が出てくると自分から仕事を探してできるようになっていき、他の人のためになっているということの自覚と、作業を確実にこなせるという自信をつけさせるのに最も適した作業訓練に思われます。

- 鍋や鉄板を磨く作業

開発校の食堂の厨房で使われた鍋や鉄板などの汚れ物を、クレンザを使って磨く作業です。立ち姿勢で一定時間作業を続けること、集中して作業に取り組む態度、磨く際の力の入れ方などを主目的として訓練します。汚れを落とすという目的がわかりやすい作業です。

- 食材の準備作業

包丁や皮むき器などを利用して、野菜・果物などの食材を切る作業を主として行います。その材料を調理することは、講師および指導員が行いますが、できた食事を盛りつけ配膳し、食べたものを片づけるまでを行います。自分で切った食材がおいしそうなる料理になっていく過程で興味を持ってできる作業

です。また、包丁という刃物を使っているせいか、集中力を必要とし、上達する速度も速いように思われます。

## 2.2 清掃に関する基礎的作業

清掃派遣業の企業の方を講師として招き、家庭ではあまり経験できない清掃に関する基礎的な作業を行います。その主な内容はモップの取り替え方、モップのかけ方、業務用掃除機の取り扱い方と、それを使っての清掃の仕方、ポリッシャの取り扱い方とポリッシャによる床磨きの仕方、ガラス磨きの仕方などです。

ここでの訓練において特に強調していることは、機械を扱うときの安全性について理解させることに主目的をおいています。コンセントを入れるときは、機械のスイッチが切れていることを確認させること、変な音がしたときは即座にスイッチを切ること、込み入ったところでは機械を注意して扱うことなど、基本的な安全についての心構えを指導しています。

## 2.3 接遇に関する基本的な訓練

なかには例外もありますが、知的障害者の方一般にいえる特徴として、人と話すことが苦手で、自分



食器洗浄作業・



食器洗浄作業・

の意見をはっきり言えない方が多いように見受けられます。接遇という訓練単位で、まずは大きな声を出させることを主目的としてこの訓練を行っています。教材としては口の体操表や、早口言葉などを使い、言わせて声を出させてみます。初めは自信なげに小さい声で言っているのですが、慣れてくるとはっきりと声を出せるようになってきます。また、基本的な挨拶の仕方や、職場でのマナーについてのVTRを見せたり、コーヒを入れることや、サービング・食器を運ぶ練習を通して接客についての基礎的なことを学ばせます。参考にVTRを見せたときの生徒の感想（図1）を載せておきましたので、知的障害者のものの考え方の理解の一助になればと思います。

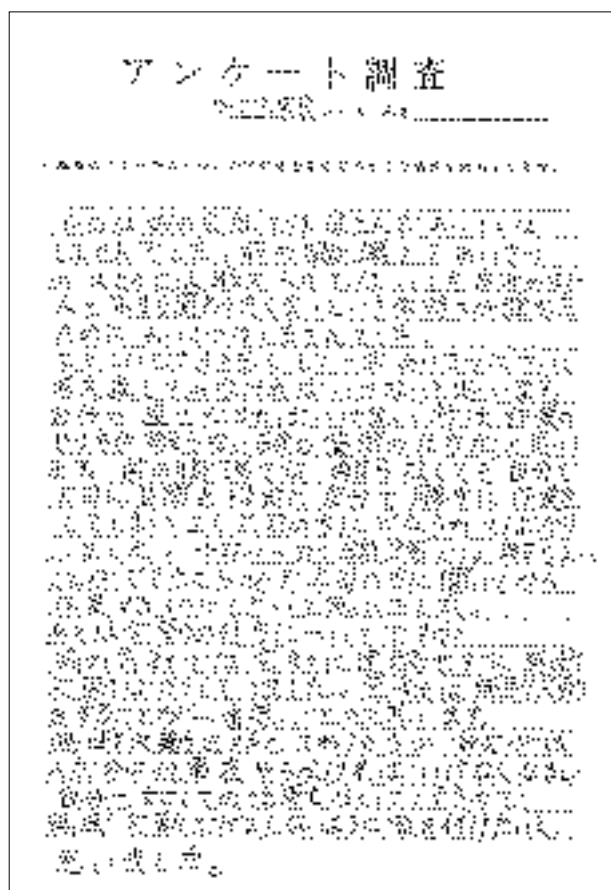


図1

ます。

### 3. おわりに

以上大まかではありますが、実務作業系サービス実務コースの訓練内容について記述してきました。訓練効果はというと、基本目的が技術の向上というよりは、むしろ職場における基本的な作業態度の習得を掲げていますので、その意味では、1年間の短期ではありますが、かなりの成果が出ているのではないかと思います。ただ、訓練内容からみますと、就職においてその訓練内容が、必ずしも就職先の職種のほうに反映されていないのが残念です。この点は今後の課題ではないかと思います。

私も、養護学校からこちらの開発校に来て今年で3年目となります。養護学校時代は、対象年齢も12～15歳、障害の程度も重度の生徒たちを指導していましたので、一般就労の進路指導などまるで未経験でした。指導の基本姿勢もほめることを中心としたものだったのですが、こちらの2年間の経験で就職指導などを通し考えさせられたことは、企業側の求めていることが基本的な生活習慣の確立（挨拶ができる、報告ができる、時間を守る等）であり、それを指導していくためには指導側の厳しさが必要であるということでした。障害が軽度であるという条件的なことはあると思いますが、1年間たった彼らの成長ぶりや、就職後の様子などをうかがうと、ここでの1年間の訓練が彼らにとって有効であったと思われます。

特に、ここではあまり詳しくは触れませんでした。基礎体力作りなど1年間きちんと励めば、できなかった課題もできるようになり、その達成度は目に見えるものです。また、病気などしにくい丈夫な体を作ることができ、就職に備えての体力を十分養えるものと思います。